

# 阪神高速事業アドバイザリー会議 〔第15回〕

## 「2022年度決算報告」

2023年12月5日  
阪神高速道路株式会社

# 目次

1. 2022年度決算概要 ……2
2. 関連事業セグメント別収益 ……7
3. 中期経営計画2022の達成状況 ……9  
(阪神高速グループサステナビリティレポート2023より)
4. 中期経営計画(2023～2025)における設定目標 ……10  
(阪神高速グループサステナビリティレポート2023より)

# 1. 2022年度決算概要

## 当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,501億円**（前年同期比+322億円）、  
営業利益 **23億円**（前年同期比▲10億円）、経常利益 **25億円**（前年同期比▲10億円）、  
親会社株主に帰属する当期純利益は **17億円**（前年同期比▲8億円）となりました。  
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

### 高速道路事業

- ◆ **料金収入**は1,768億円（前年同期比3.8%増）  
※新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったことにより、  
通行台数が回復し、前年同期を上回りました。
- ◆ **道路資産完成高**は540億円（前年同期比68.9%増）
- ◆ **道路資産賃借料**は1,315億円（前年同期比5.8%増）
- ◆ **管理費用**は445億円（前年同期比0.6%増）
- ◆ この結果、  
**営業収益**は2,315億円（前年同期比14.0%増）  
**営業費用**は2,300億円（前年同期比14.7%増）  
**営業利益**は14億円（前年同期比42.3%減）  
となりました。

### 受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の  
事業を受託したことにより、  
**営業収益**は131億円（前年同期比39.0%増）  
**営業費用**は131億円（前年同期比38.7%増）
- ◆ この結果、**営業損失**は63百万円  
（前年同期は営業損失70百万円）となりました。

### その他の事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、  
事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、  
**営業収益**は59億円（前年同期比2.0%増）  
**営業費用**は48億円（前年同期比3.0%増）
- ◆ この結果、**営業利益**は10億円  
（前年同期比2.3%減）となりました。

## 高速道路事業

### 主な増減内容

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2023年3月期	2022年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,768	1,703	+64
	道路資産完成高 <sup>(注)</sup>	540	320	+220
	その他売上	6	6	▲0
		2,315	2,030	+285
営業費用	道路資産賃借料	1,315	1,242	+72
	道路資産完成原価 <sup>(注)</sup>	540	320	+220
	管理費用	445	442	+2
		2,300	2,005	+295
高速道路事業 営業利益		14	24	▲10

(注) 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

- 営業収益
  - ・通行台数は、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まったことにより回復し、一日当たり約70.7万台（前年同期比3.5%増）
  - ・料金収入は1,768億円（前年同期比64億円増）
  - ・道路資産完成高は、大和川線事業の完了、営業中路線の修繕工事等の完成等により、前年同期比220億円増の540億円

- 営業費用
  - ・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比72億円増の1,315億円
  - ・管理費用は、前年同期比2億円増の445億円

## 関連事業

単位：億円(単位未満切捨て)

区 分		2023年3月期	2022年3月期	増減
受託事業	営業収益	131	94	+ 36
	営業費用	131	94	+ 36
	営業利益	▲ 0	▲ 0	+ 0
その他の事業	営業収益	59	58	+ 1
	営業費用	48	47	+ 1
	営業利益	10	10	▲ 0
関連事業 営業利益		9	9	▲ 0

### 主な増減内容

●受託事業  
 大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の増等により、  
 営業収益は前年同期比36億円増の131億円、  
 営業費用は前年同期比36億円増の131億円となり、  
 営業損失は63百万円  
 (前年同期は営業損失70百万円)

●その他の事業  
 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、  
 道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、  
 営業収益は前年同期比1億円増の59億円、  
 営業費用は前年同期比1億円増の48億円となり、  
 営業利益は10億円  
 (前年同期比0.2億円の減)

# 1. 2022年度決算概要

## 当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表			
区 分	2023年3月期	2022年3月期	増減
資産の部	2,523	2,071	+451
流動資産	1,998	1,538	+459
(うち仕掛道路資産)	769	603	+165
固定資産	524	532	▲ 8
負債の部	1,932	1,498	+433
流動負債	406	328	+78
固定負債	1,525	1,170	+354
純資産の部	590	572	+17
株主資本	607	589	+17
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	401	384	+17
その他の包括利益累計額	▲ 16	▲ 16	+0

連結損益計算書			
区 分	2023年3月期	2022年3月期	増減
営業収益	2,501	2,179	+322
営業費用	2,478	2,144	+333
営業利益	23	34	▲ 10
営業外収益	1	1	▲ 0
営業外費用	0	0	+0
経常利益	25	36	▲ 10
特別利益	0	0	▲ 0
特別損失	0	2	▲ 1
税金等調整前当期純利益	25	34	▲ 9
法人税等	7	8	▲ 1
親会社株主に帰属する 当期純利益	17	26	▲ 8

# 〔参考〕阪神高速の交通量・料金収入の状況【2023年度上期】

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
※ 交通量(台/日) 〔2019年同期比〕	704,309 〔96.2%〕	681,667 〔97.6%〕	707,861 〔106.2%〕	722,744 〔96.9%〕	722,080 〔97.6%〕	730,900 〔99.1%〕	711,548 〔98.8%〕
※ 料金収入【税抜】 (百万円) 〔2019年同期比〕	14,481 〔95.4%〕	14,437 〔96.1%〕	14,467 〔106.0%〕	15,312 〔96.7%〕	15,342 〔96.7%〕	15,023 〔99.2%〕	89,062 〔98.2%〕
ETC利用率	96.6%	96.6%	96.6%	96.5%	96.4%	96.6%	—

※2020年3月29日以降は、6号大和川線(7.7km)開通後の実績

## 〔新型コロナウイルス感染症による影響〕

・今年度は緊急事態宣言等の行動制限がなく、5月に感染症法上の位置づけが5類へ移行されたこともあり、新型コロナウイルス感染症による影響は弱まっている。

## 〔交通量〕

・対2019年度比は上期計で98.8%となり、特異事象影響等を除けばおおそコロナ以前の水準まで戻っている。

※6月は2019年の実績を上回っているが、これは2019年に開催されたG20大阪サミットによる大規模交通規制の影響によるもの。

## 〔その他〕

・2022/6/1～ 14号松原線 喜連瓜破⇄三宅JCT間における約3年間の通行止を実施中

## 【特異事象】

### 2019年度

5月24日～6月3日 リニューアル工事により通行止め(3号神戸線 湊川～京橋)

6月27日～6月30日 G20 大阪サミットにより大規模交通規制

8月15日～8月16日 台風10号の影響により一時通行止め(4号・5号湾岸線の一部区間)

### 2023年度

5月19日～6月7日 リニューアル工事により通行止め(3号神戸線 京橋～摩耶)

6月2日 台風2号の影響により一時通行止め(6号大和川線の一部区間)

8月15日 台風7号の影響により一時通行止め(4号・5号湾岸線の全線及び2号淀川左岸線・6号大和川線・16号大阪港線の一部区間)

### 3. 前中期経営計画達成状況・中期経営計画(2023~2025)における設定目標

ありたい姿	指標	2022 目標値	2022 実績値	コメント		指標	2025 目標値
1	交通事故件数	4,200件	4,534件	交通事故件数は過去から減少してきているが目標達成には至らなかった	→	死傷事故件数	10.0件/億台km
1	快適走行路面率(良好な走行路面の割合)	97%	96%	前回補修から時間が経過した路線での損傷が進行したため	→	快適走行路面率(良好な走行路面の割合)	97%
1	機能低下があり、対策を要する損傷の補修率	100%	100%	達成		橋梁・トンネル・附属物の点検実施率	100%
1	道路照明LED化率(本線照明)	58%	63%	達成			
2	渋滞損失時間	880万台・時	1,071万台・時	大規模更新・修繕事業の影響によるもの	→	渋滞損失時間	870万台・時
2	ETCお知らせアンテナ設置	15箇所	15箇所	達成		ETC専用料金所	110箇所程度
2	ETC2.0利用率	30.0%以上	29.6%	ほぼ達成			
2	各パーキングエリアの提供サービス(お客さま満足度(5点満点評価))	4.3点	4.0点	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった	↘	各パーキングエリアの提供サービス(お客さま満足度(5点満点評価))	4.3点
2	パーキングエリア数や設置箇所(お客さま満足度(5点満点評価))	4.0点	3.6点	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった			
4	関連事業の営業収益(連結)	58億円	59億円	達成	→	関連事業の営業収益(連結)	60億円
4	関連事業の営業利益(連結)	8.5億円	10億円	達成	→	関連事業の営業利益率(連結)	14%
5	道路照明LED化によるCO2排出の抑制量	300,600 Kg-CO2	233,800 Kg-CO2	CO2削減効果が高いトンネル部の着工が遅れたため	→	道路照明LED化によるCO2排出削減量(2023~2025合計目標値)	62.2t-CO2
5	特定調達物品におけるグリーン調達率	100%	99.7%	ほぼ達成	↗	お客さま満足度(5点満点評価)	4.0点
6	お客さま満足度(5点満点評価)	3.9点	4.0点	達成		女性採用	4割
						男性の育休取得率	100%